

日時：10月14日（金）16:00～17:30

場所：京都大学吉田キャンパス工学部総合校舎 102 教室

(http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_y.htm)

参加費：無料（事前登録不要）

講演タイトル：

Dynamic causal modeling vs. Granger causality analysis：

理論と実践、そして使い分け

講演者：

尾崎 隆（東京大学・研究員）

講演要旨：

近年、機能局在論の限界を指摘する声が高まり、これを打破するための枠組みとしての脳機能のネットワーク的側面に関する研究が注目を浴び続けている。そのネットワーク性を定量化する指標としての **effective connectivity** を得る手法として、**Dynamic causal modeling (DCM)**と **Granger causality analysis (GCA)**の二者が特に大きな発展を遂げ、広く普及してきた。しかしながら、この二者は互いに大きく異なる原理に拠ることから、往々にして誌上論争などの形でそれぞれの手法の提唱者・支持者同士が激しく対立する場面が見受けられるのも事実である。また、そういった本質的とは言い難いセンセーショナルな論争に覆い隠される形で、二者の間の原理的な差異や使い分けの基準といった「利用者にとってより大事な情報」が見落とされる結果にもなっている。本講演では、**DCM / GCA**がどのような異なる原理に拠り、どのようにして実際の神経データに適用され、さらにはいかなる場面でこの二者を使い分けるべきかを解説する。